

京都教区時報

第176号

田中司教認可

毎月1日発行

発行 京都司教区 発行責任者 村上透磨
 編集 カトリックきょうと福音センター 住所 京都市中京区壬生瀬田町26 Tel 822-7123

(特集) 復活教書

問題があるということについて
 問題のある家庭を
 非キリスト者の家庭
 非福音的だ
 福音から遠いと
 思いこむなら間違っている
 問題をかかえこむことは
 人が人として生きるかぎり
 生身の人間が生きるかぎり
 不完全な人間が生きるかぎり
 常に問題がある
 常に波風がたつ
 常に摩擦とあつれきがある
 いさかいもある 争いもある

社会の中に生きるかぎり
 社会とともに生きるかぎり
 社会や政治や社会環境や
 宗教や経済や人間関係などから
 必ず問題が入ってくる
 ありとあらゆる関わりが
 問題をかかえてやつてくる
 そしてまた問題とともに
 いろいろな悪もやつてくる
 社会とともに生きるなら
 社会に開かれて生きるなら
 喜びと悲しみの同感
 平和と苦しみの同情
 愛と正義の結びあい

問題をかかえているということは
 やっぱり重たい現実なのだから

ともに 十字架を 荷って歩む

村上透磨

どんなに聖人がいても
 たとえキリスト様がいても
 いやキリストがおられたゆえに
 分離、憎しみもあつたのだから

そう、おそらくその通り
 では何も問題のない家庭?
 いいえ、いいえ問題ばかり

マタイの1・2章
 ルカの1・2章 観想してみよう

外からくる問題について
 仮にまたどんな完全な家庭が
 あつたとしても

もう問題ばかり
 人間に良いことなんて何もな
 い

社会の中に生きるかぎり
 社会とともに生きるかぎり
 なぜなんだろう、なぜだろう

それでもやっぱり理想的の家族
 それは理想
 ともに喜びをもつて生きる
 ともに苦しみを荷って生きる
 それは現実

ともに
 だからこそ ともに
 語り合い 分かち合う
 だからこそ ともに
 同感し 協力する
 だからこそ ともに
 この沙漠を旅する しみじみと
 だからこそ ともに
 この海を越す しんしんと

ナザレの家庭は理想的
 ナザレの家庭は理想的?



1992年復活教書

天に在す我らの父よ

京都司教 ライムンド 田中健一

復活は変容

私たちの主イエズス・キリストは私たちのために死に、私たちのために復活されました。これは私たちが御ミサのたびごとに、感謝と感動の中に唱える信仰告白です。

主は復活されました。私たちも復活させていただきます。それは、たんに世の終りに始まるではなく、もうすでに復活の生命にあづからせていただいているのです。秘跡。特に洗礼、聖体、ゆるしの秘跡を通して。またいのちのみことばを味わいかみしめることによって。日常生活

の中で、いろんな意味で「弱い立場に置かれている人々」（福音書の言葉をかりれば「小さい人々や貧しい人々、また抑圧された人々」との出会いを通じて、復活されたキリストに出会っていくのです。その出会いを通じて変容（変身）していくのだと思います。

復活は、たんに失ったもの（特に生命）を取りもどすことではありま

せん。全く新しい生命に生かされることでもあり、新しい人となると工夫4・24では言っています。全く新しい人として変身させられたので

す。ですから全く新しい生活をしてもよいはずなのです。（注エフエ4・25）聖靈に生かされた生活をするのだと言っています。（注ガラテア5・13～26、ロマ8・12～39）

復活にあずかるとはその様な生命（生活）に「立ちあがる」ことなのです。主と共に立ちあがらなければなりません。主と共に歩みださねばなりません。主に従つて歩みはじめねばなりません。この「立ちあがり」とその「招き」が毎年、毎年、復活祭ごとに、いや毎日、毎日主の死と復活が記念されるミサにあずかるごとにこの神の偉大な神秘の招きを受けるのです。

復活は新しい過越し

復活は新しい過越しと言われます。過越しは旅をあらわします。旅。

しかも荒野の旅です。それが具体的にどういうことなのか、また何を意味するのか、今ここで申し上げるつもりはありません。ただ、「過越しは旅であり、人生も旅です。神の民（教会）は世界を旅します。旅は長い道のりです。それは沙漠を通る旅です。」このことに注目しておきたいと

思います。そして、その砂漠の旅の中で何が起ったかを静かに黙想してみる必要があると思います。それは、あのイエズスの荒野の誘惑を黙想し、そこで何が起り、またイエズスが何を大切にされているかを知ることです。

砂漠は私たちを裸にしてしまいます。私はこの砂つぶにすぎません。私が無力で空であり、無にすぎないものであることを体で知ることでしょう。そしてそこで頼るものは神以外にはないと知らされます。この中で私たちが何を必要とするかは、キリストの砂漠での3つの誘惑とそれに対する3つの答えに見ることができます。

人はパンだけで生きることはできない

神のことばによつて生きる

ただ唯一の主である神を礼拝せよ

主である神を試みてはならない

ここで、見落してはならない2つのことがあります。その一つは聖靈が砂漠に追いやり、裸にし、断食と祈祷の間にその試みがあつたと言うことです。これは聖なる生活、神の招きに答えようとする私たちにとってじつくり考えなければならないことです。なぜなら聖靈は私たちを恵みや愛や生命や感動で満たす前に私たちを砂漠へ、砂漠への旅へと招いたからです。

神に近づけば近づくほど、自分が清められるという試練に招かれます。そして、神のみ旨を探し求める戦いが続きます。

キリスト者の人生は、結局、この様な荒野の旅ではないかと私は思うのです。

旅にはいろんな出会いの喜びがありますが、それと同時に大変な困難との戦いを覚悟しなければなりません。それは十字架の旅でもあります。

過越しとはまさにその十字架の旅(ルカ9・22～27)なのです。

復活の喜びに到るには、共に荷う十字架の長い旅をともないです。それは3日目に解決する問題ではありません。今の苦しみも、すぐに解決するものではありません。また寝て待つものではありません。困難な旅をいつか必ず来る復活の喜びのあることを確信し、希望して、愛をもつて歩み続けていくことが復活の喜びにつながることなのです。

その歩みに、その旅に、その道に主は招いておられるのです。

第2回ナイスにむけて

さて、このたびこの教書を通じ皆様に第2回ナイスについての取組みについてあらためてお願ひしたいと思います。

第2回ナイスが長崎において1993年秋ごろに開催されます。そのテーマは「家庭」です。このことにつきまして具体的な問い合わせを先の時報(175号)で紹介していただきました。同時に京都教区での取り上げ方を同じ号に掲載しています。またお配りしました準備委員会からのパンフレットではもう少しかみくだいて問い合わせております。どうぞ話し合った結果をナイス事務局までお送りいただくようお願ひいたします。

また、現在の京都教区の活動の中では5月～10月にかけて行われる聖書使徒職委員会主催の聖書連続勉強会の「聖書と家庭」もお役にたつことと思います。その他、毎月第2月曜日に行われている教区レベルでの家庭研究会やマリッジエンカウンター、結婚講座などを通し「結婚と家庭」の問題についてすでに取り組んでいただいています。皆様の努力を評価させて頂きながら、さらに第2回ナイスにむけて互いに協力し合い、持ちより話し合っていきたいと思っております。

課題案の提出について

家庭の問題を取り上げることにつきまして、私の少し気になることをあげておきたいと思います。

家庭の福音化ということを問われると、キリスト教的理想的家庭づくりと考えてしまいます。それは、両親とも健在で、信仰心あつく、温かい聖なる家庭を一番に連想される方が多いことでしょう。しかし、実際には多くの問題をかかえ、何とか乗り越えようと努力し、うめいでいるものだと思うのです。私はナザレの聖家族のことを思いだします。ナザレの聖家族は困難をいっぱいかかえていました。ですから、私は今回のナイス2のテーマ「家庭」について教区の皆様方にお願いしたいのです。皆様方が現実社会の中で具体的ないろいろな問題（例えば、高齢化、学歴社会、いじめ、差別などなど）について試行錯誤されていることを話し合っていただきたいのです。そして、この家庭問題を考える時、家庭の理想的あり方を考えるのではなく、家族一人一人がかかえている問題が教会全体としてどのように取り扱われているか、矛盾に思うことなどに注目して課題案を提出していただければ幸いです。

おわりに

私たちが対話に開かれていくことは、それは私たちの扉を開き垣根をはずしていくことだと思います。そして、社会に世界に自然に出かけ、ともに心を合わせて生きることにあるでしょう。そこにこそ、宇宙までの救いの業を広げそれを完成された復活のキリストの神秘にあずかるこ

となるのではないでしょうか。（注ロマ8・コロサイノ・13～22）そして、宇宙的な広がりの中でともに主の祈りを唱えることになるのです。

天の私たちの お父さん

み国がきますよう
み旨が行われますように
あなたが唯一の父として
崇められますように

お願ひ

このたび報恩寺教会（福知山市）の管理不行き届きにより大切な聖堂を全焼させました不祥事を深くお詫び申し上げます。

教区のみなさま方に建設資金のお願いを教区時報の紙面をおかりしてお願い致します。

報恩寺カトリック教会 主任司祭 M・カリエ

〔送り先〕

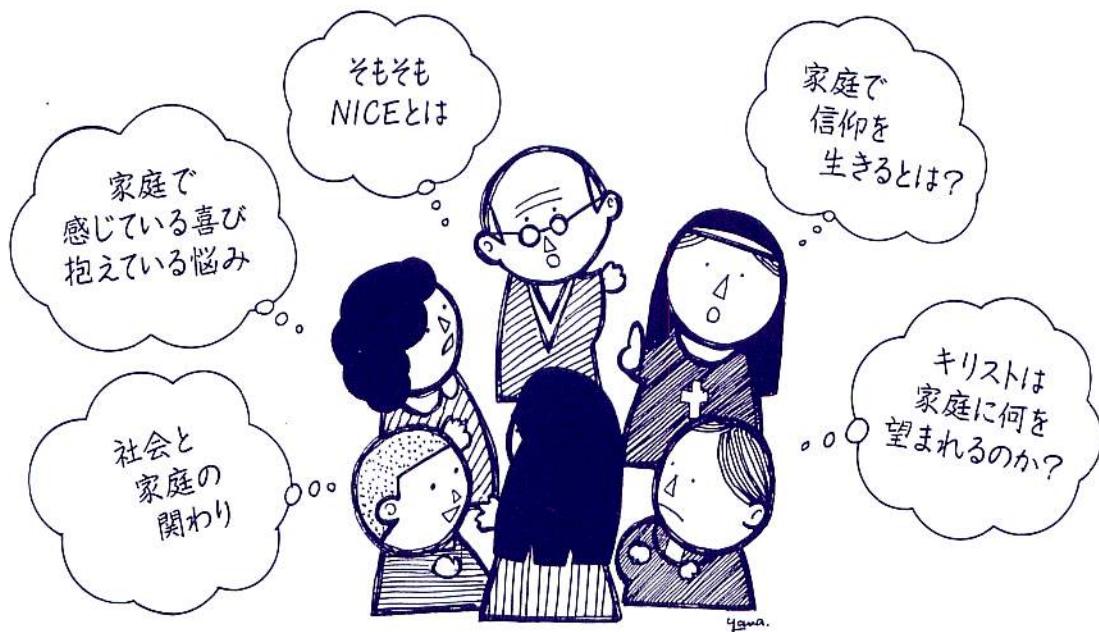
口座番号 京都4-74881
名 称 カトリック報恩寺教会

ともによろこびをもって生きるために

—第2回 全国会議にむけて課題案を出してください—

日本カトリック司教団は、第2回福音宣教推進全国会議を準備していくにあたり、課題案を広く意見を集めた上で作成することになりました。京都教区ではこのアンケートをもとに、教区の課題案を提出します。

第2回福音宣教推進全国会議
(NICE)にむけてパンフレットができました。このパンフレットを利用していくいろいろなところで話し合い、意見をだしてください。NICEは代表者だけの会議ではありません。みなさん一人一人が参加者なのです。みんなで話すことができます。NICEは代
2日用です。教区事務局にお出しください。
▼パンフレットの提出日は4月20日
事務局にお出しください。
NICE 20



こんどのNICEでどんなことについて
話し合えばよいと思われますか?

第1回福音宣教推進全
国会議(NICE-1)の
精神のうちに

個人の意見でなく
二人・三人、グループ、
共同体の意見を

聖霊の導きの中で
祈りとともに
話し合いましょう。

第2回 福音宣教推進全国会議 (NICE-2)

京都南部

きょうと ◆ しが ◆ なら ◆ みえ

「万匹の蟻運動」

発足について

教会建設基金づくり

日頃は、南信協活動に一方ならぬご支援を賜り、厚く御礼申しあげます。

南信協では、1989年6月に南部近隣小教区で話題になった小教区の盛衰、危機感の一つとして、教会建物の老朽化に対する建設資金問題が壮年部会で持ち上がり、信徒としてもこの問題に積極的に関わる責務を痛感し、南信協の活動に取り上げられ、建設基金づくり「**一万匹の蟻運動**」として推進委員会をつくり準備を進め、本年の復活祭（4月19日）に発足することになりました。

一口、一日、十円を喜びの献金としてそれぞれに応じて、自由に口数を選びながら無理なく、しかも絶え間なくこの運動を続けるならば一滴の水が大海を生むがごとく、驚き基金が蓄積されて建設資金の難題は解消されます。

わたしたちは、今日まで布教国の中のものとに、多くの宣教会・修道会を通じて海外の信徒の多額の献金、援助によって用地を取得し、聖堂を

始め関連施設の建設をしていただきました。

しかし、それら、特に戦後間もなく建設された聖堂等の多くは、その耐用年数を過ぎ、各地で再建築、増改築を、新築と併せて行わなければならぬ状況におかれています。そ

して自他共に経済大国と認め、また世界から経済的国際貢献を強く望まれている今日の我が国が、教会だからといって海外諸国から資金援助を

昔日のごとく期待できるわけでもなく、又そうすべきでもありません。

しかしながら、教会建設資金の在り方と運用は、私達の知り得た範囲では、資金量も含め小教区、教区とも決して豊かでなく、当面する小教区の聖職者・信徒の方々のみが、その資金調達に多大の御苦労をなされています。

わたしたちは、NICE-1以後、開かれた教会、社会へ向けられた教会、生ける泉の水となる「見える教会」が立派にその役割を果たすためには何よりもその拠点となる教会及び関連施設の拡大、充実が欠かせないと考えます。

充分な修復・改築・新築資金が必要ですが、残念ながら現在のところ、いずれを見廻しても安心できる状態には程遠く、手をこまねいでいるの

が実態でしょう。

そこでわたしたちは、今後は、従来のように各小教区が独自で解決するのではなく、それぞれの小教区が連帯して、教区全体で対処すること

が大切であると考え、信徒一人ひとりが、京都教区共同体の一員であることを自覚して、直接参加し一致協力して基金を作り、いざこの小教区

を問わず、「必要なときに、必要な時に、必要なだけの資金を全員の合意で利用できるように」との考え方

を発足させるのです。

わたしたちは使徒行録の教会共同

体を知っています。信者たちは兄弟的な一致、パンを裂くこと、祈りを

し、すべての物を共有し、おのおの必要に応じてそれを分け、心を一つにして神を賛美していました。この

ような共同体の行動を「交わり」と言います。このコインニアの意味は一般社会で使われる共同体より広く深い

い「交わり、捧げる、共に与かる」の意味をもち、聖書の中では非常に大切な言葉なのです。

「**一万匹の蟻運動**」にはこの3つの意味を含んだ理念があり、キリスト者として理解していただき、同時に

に信仰共同体の絆の理念にもなっています。

いることも強調したいのです。

関わりが大切なのです。イエズスのたとえ話に見られます。「よきサマリア人」、「ぶどうの木と枝」、「や

もめの献金」そしてパウロの書簡の中で「肢体は多くても体はひとつ。一つの肢体が悩めば、ほかの肢体も共に悩む」の教えのように、わたしたちは共に喜びをもつて生きたいのです。

「**一万匹の蟻運動**」は、「やもめの献金」のように最初は微々たるものでしょう。でも、みんなの心が一つになればキリストの交わりを生き、贊美と感謝の喜びを体験しながら、一滴の水が大海を生むがごとく、驚くべき基金が蓄積されて建設資金の難題は解消されます。

カトリック教会は普遍教会です。国内は勿論、国外のほとんどの国にカトリック信仰共同体があり、迎え入れられミサに参加でき、その土地の信徒によって教会を維持して受け入れられているのです。他国の人々を暖かく受け入れるためにも、見え隠れの信徒は絶対に必要です。自分の教会という意識も大切ですが人は移動します。よりい広い立場で考えていただきたいと思います。

「**一万匹の蟻運動**」を通して個人のエゴから抜け出し、小教区エゴから抜け出し、社会と共に歩む教会への心が培われれば「石数鳥の刷新をもたらす運動だと確信して皆さんに参加をお進めいたします。」

1992年2月

共に喜び 共に苦しむことへ

—— 一つの提案

(匿名希望)

「一つになろうキリストの内に皆、一つになろう」。皆が心より願っている事なのになかなか実現しがたい事です。十人十色、人それぞれ考えも行動様式もちがい、それぞれ義とするところも微妙に異なっています。その中で「一つになる」秘訣は、共に喜ぶために共に苦しむ事にあるのではないかでしょうか。口で云うことはやさしいのですが、実際にすることはとても難しい事です。しかし黙つて手をこまねいていても何も変わりません。そこで、私は一つの提案をしたのです。



現在私たちの属している京都教区が一つになって、自分たちのお聖堂の建設のため努力しておられる桃山教会に協力し、全員でまず一

つのお聖堂を建てるから始めようではありませんか……。お聖堂の老朽化は桃山教会だけではなく、教区全体にわたって考えねばならぬ問題です。きっとどこの小教区でも、よそより家の問題だといわれるでしょうし、そのとおりなのです。が、ちょっと立ち止まって、キリストの視点に立つて考えてみるのも良いのではないかと思います。我田引水かもしれません、私なりの考えを述べさせて頂きます。

桃山教会を名指しにした事は、既に工事に掛つておられるからです。何年もかかって準備された資金では足りなく、大きな負債を抱えての建設工事を聞いています。

どこの小教区でも、遅かれ早かれ建築準備基金を置かれ、財務の方々は少しでも多くの蓄積をと苦労しておられると思います。しかし、諸事情をかんがみると、一小教区で賄い切れるものでないことは誰もが承知していることです。京都教区では(教区南部に限られますが)、「一万匹の蠍」運動を提唱される方々が、少しずつお金でも一万人の信徒が協力して基

金を作り、お聖堂の建設費の援助においてようと、努力を続けておられます。すばらしい企画で発足が待たれるのですが、桃山教会には間に合わないのが実情です。そこ

で、現在負債を抱えておられる桃山教会のお聖堂を、京都教区全体(少なくとも教区南部全体)で協力して建てることができると考

えました。

一生懸命で蓄積した資金ですから、誰であっても自分の小教区のために遣いたいし、それは当然の事ですが、一步譲つてキリストの「苦しむ人の隣人あれ」を考える時、手持ちの資金を、いやその一部でも人のために用立てることはできないでしょうか。今すぐ建てかえなければならないお聖堂でなければ、桃山に私たちのお聖堂を先に建てようではありませんか。

この「パン種」はみんなの投稿記事で作っています。みなさんのご意見をご自由にお送りください。



で建てた物になるのです。喜びは何十倍にもなるのではないで

しょうか。

司教様の京都教区の信者へ呼びかけ、神父様方の小教区信徒への呼びかけは、信徒への励ましとなります。修道会の皆様の協力は本当の教区の一致をもたらします。一つ一つ私たちの

お聖堂を建て、教区のお聖堂はどれも皆で建てたものにしようではありませんか。

お知らせ

教区スケジュール

3月

1日(日)ひなまつりバザー

結婚相談室開設

5日 司祭評議会

8日(日)教区合同洗礼志願式

9日 家庭研究会
黙想会（高野教会）

9～10日部キ連主催「狭山現地学習」

12日 卒業式（ノートルダム女子大学）

15日(日)助祭叙階式（桃山教会）

卒業式（ノートルダム小学校）

18日 平和への歩み実行委員会

21日 卒業式（聖母学院中学校）

正平協講演会「水平社の原点と70年後の現在」

21～22日中高生侍者合宿・黙想会（北白川教会）

22日(日)助祭叙階式（河原町教会）

子羊会例会（高野教会）

23日 カトリック幼稚園連盟研修会

24～26日小学生侍者合宿（ヴィアトルル会宗研）

26日 聖香油ミサ・講演会

27～29日CBS宗教トレーニング（野外礼拝センター）

28～29日部落問題委員会合宿

つどい

▼部落問題委員会からのご案内

4月

5日(日)結婚相談室開設

8日(日)入学式（聖母学院中高等学校）

13日 家庭研究会

19日(日)子羊会例会（高野教会）

25日 部落問題委員会学習会

部落問題委員会学習会

25～26日青年センター運営委員会

「樂只支部に学ぶ」

25～26日青年センター運営委員会

「樂只支部に学ぶ」

28日 スポーツデー

29日 南山城近隣小教区合同運動会

午後1時集合

問合せ先 部落問題委員会 Sr橋本

◎学習会 現地学習「樂只支部に学ぶ」
 日時 4月25日
 集合場所 衣笠教会
 午後1時集合
 問合せ先 部落問題委員会 Sr橋本
 ☎ 075(223)2291

▼部落問題委員会の今後の計画

5月23日 「橋のない川」映画鑑賞 最終の時間 京都市東宝系映画館

6月20日 「淨・不淨」正義と平和 協議会講演会

講師 小久保喜以子（ノートルダム会）
 場所 河原町カトリック会館6階
 問合せ先 日本カトリック部落問題委員会
 京都市中京区河原町通三条上ル
 カトリック会館内

初誓願・終生誓願 おめでとうございます

初誓願 レデンプトール会（3月15日）

終生誓願 ヨゼフ三輪周平

F・クレメンス瀬戸高志

人の愛はかなしいですね
 人の生命もかなしいですね
 人は愛してあわれですね
 それ故またいとおしくやさしい。
 復活の主はやさしくあたたかに
 しずこころなく花の散るあと
 やがて実をなす造化の妙よ
 人の生命も散つて咲く一粒の麦
 これをあわれとなつかしい。（M）



4月より「京都教区時報」編集部は河原町カトリック会館に移ります。今後ともよろしくお願ひいたします。

編集長 村上透磨

〒604 京都市中京区河原町通り三条上る

河原町カトリック会館5階

□

075(223)2291